５月１０日　金環日食のまとめ(1)

編集部

５月の１０日の金環日食は、メキシコからアメリカ合衆国、そしてアフリカのモロッコまで金環帯が伸びていて、交通の便の良い都市が数多くその中に含まれていた。そのため、たくさんのアマチュアが遠征したと思われる。しかし現時点では情報が少なく、ここでは極めて限られた範囲のことしかお伝えできないことをご承知いただきたい。

☆　アメリカ

アメリカでは、いくつかの州で雲が出たようだが、金環帯が通るほとんどの町で多くの人々が日食を楽しんだと報道されている。ただ、中心線に近いサンスポットの太陽天文台では、雲に阻まれて観測はできなかったようだ。

前号で述べたように、ツアーは二社・３コースが企画された。しかし、行きやすい場所であったためか、かえってツアーの参加者は少なかったようだ。

阪急交通社神田支店が主催したツアーは、Ｂコースのみが催行された。観測地はテキサス州エル・パソの空港近く、ヒルトンホテルの駐車場で、１９名の観測師が快晴の日食を観測した。一方、パシフィック・ツアー・システムズ主催のツアーは、参加者が３名であったが催行され、同じくエル・パソの中心街にあるトラベロッジで観測を行った。

そのほかエル・パソでは、大越　治氏ら６名と山口雅之氏が、クォリティインの芝生でアメリカ各地からのアマチュアと共に観測を行っている。

また、正午中心食が起きるエリー湖近くのトレドでは、川合慶一氏らが６分14秒の金環食を観測している。

交通の便がよく、金環帯に大きな町がたくさん含まれたため、個人的に遠征した観測者だけでなく、日食を知らずに出かけた一般の日本人旅行者も含め、大勢の日本人がアメリカでこの金環を目撃したと思われる。

☆　アフリカ

一方、金環帯の終わりにある北アフリカのモロッコには、スカイウォッチャー誌の編集部が企画したツアーが遠征を行している。メンバーは添乗員を含めて11名で、内陸の古都メクネスで観測を行なった。当日は昼ごろまで曇っていたが、夕方には雲が切れ、地平線近くの太陽直径分くらいの高度までは雲におおわれていたが、それ以上の空は晴れていて、第２接触から第３接触までの観測には支障なかった。

個人的にあるいはグループで遠征された方は、観測地に関わらずぜひ報告をお寄せいただきたい。